



昼休みの校庭には、子供たちの笑顔や歓声があふれています。鬼ごっこをする子、寝転がって戯れあう子、ドッジボールをする子など、大勢の子供たちが思い思いの遊びを楽しんでいます。

中島修一校長先生の話



「はじめは保護者の有志の方が校庭の一部（500m²）を芝生にしてくれました。その後、東京都の事業として校庭の全面芝生化（3,600m²）が実現しました。維持管理については『中村小グリーンキーパーズ』を立ち上げ、運営していくことにしました。組織の中には、練馬区と練馬区教育委員会・学校・PTA芝生協力委員会・学校開放委員会・中村小の校庭を芝生にする会・有志会員の皆さんが参加し、かかわっています。全員が『子供たちのために』を合言葉に一致協力しています。」

子供たちのためにある「芝生校庭」



中村小学校は昨年度、校内研究活動の研究主題を「芝生で楽しく、芝生と仲良く」として、芝生校庭の特色を生かす教育の創造に取り組みました。芝生を学校の教育活動にどう生かして位置付け、子供たちにどんな力を付けていくのかを校内研究を通して明らかにしてきたのです。生活科・総合的な学習の時間だけではなく、道徳や体育の授業で「芝生校庭」を生かした学習活動を立案・実践しています。特に体育では、「ラグラグビー」の実践例や「Gボール」を使った運動例から、全学年の年間指導計画まで示されています。

また、校庭に使われている3種類の芝に「なかしばさらさらくん」「なかしばミドリちゃん」「なかしばぐんぐんちゃん」と名前をつけています。これは、芝により親しみがもてるようにと、キャラクターイラストとネーミングを子供たちに募集して、決定されたものです。

芝生校庭になってのよさを体感しているのは、子供たちです。アンケート結果によると、全校児童の約3分の1が「毎日、校庭で遊んでいる」と回答しています。半数を越えている学年もあります。また、約8割の児童が「転んでも痛くない」と考え、転がることや滑り込むことへの抵抗感が減り、より活発な運動につながっています。



区・学校・保護者・地域が 一体となった維持管理組織 「グリーンキーパーズ」

グリーンキーパーズは、校庭の芝生を維持管理するために様々な活動をしています。



・芝生定例会の開催

芝生定例会とは、「グリーンキーパーズ」に所属する、校長先生をはじめとする学校職員、練馬区の担当職員、委託業者、PTA芝生協力委員、学校開放運営委員や有志の方が、それぞれの立場で参加し、月ごとの芝生の状況を確認し、翌月の利用や活用、メンテナンスについての見通しを立て共通理解を図るためのものです。月一回、開かれます。会議では、区より委託されている造園業者より当日までの1か月の報告がなされ、今後の作業予定が示されます。その後、学校より教育活動に関する校庭使用の予定が説明されます。質疑応答の中では、作業内容への質問や芝生メンテナンスに参加された方が気付いたこと、校庭開放利用団体からの確認等が話し合われます。それぞれの出席者が意見や知恵を出し合い、話し合いが和やかに進む様子から、学校・保護者・地域の連携やコミュニケーションがとてもスムーズであることが伝わってきます。

積極的な情報発信

・「中村小だより」

工事に入る前の平成17年6月号から「芝生ニュース」のコーナーを設けました。芝生にかかわる教育活動の様子を紹介したり、学校行事への取組をお知らせしたりするコーナーです。在校生の全家庭だけでなく、町会の回覧板を通じて地域にも配布しています。

・『なかしば通信』

グリーンキーパーズのPTA芝生協力委員会より、毎月『なかしば通信』が発行されています。当月の作業に関するお知らせや前月の作業内容が報告されているものですが、それだけでなく、中村小の芝生の状態に合わせたトピックスも掲載され、紙面から校庭芝生を大切にしている思いがよく伝わってきます。

・ホームページ「なかしばコミュニティ」

今年の5月、中村小芝生の校庭の利用者、地域の方のために『なかしばコミュニティ』が開設されました。「中村小学校の校庭を芝生にする会」のホームページを中村小グリーンキーパーズに移管し、リニューアルされたものです。「なかしば日記」として日々の芝生に関する出来事や、芝生の校庭で行われた開校60周年記念運動会の写真等も紹介されています。

URL;<http://www.shibafu.jp/ngk/index.htm>

※フォーラム「芝生から広がる地域づくり」のお知らせが、7ページにあります。